

に暮らすことは、決して簡単ではありません。市では外国語による情報提供や相談体制などを充実させるほか、市民の皆さんと協力しながら、地域での理解や、外国人との交流を積極的に進めていきます。

札幌の魅力・特性を生かした国際交流がもたらすもの

海外のどこかで「札幌とはどんな街ですか」と聞かれたら、「ひと冬に五メートルの降雪がある百八十万都市」という答えはどうでしょう。

とかくマイナスの面だけが強調されがちな寒冷地の冬ですが、それを克服しながら発展してきた本市の知識や技術、そして市民の気質は、貴重な財産といえます。

「冬は資源であり、財産である」を基本理念に、北方圏の都市が集い情報を交換する会議があるのをご存じでしょうか。本市の呼び掛けで昭和五十七年に始まり、二年に一

度行われている北方都市市長会議です。現在、十カ国十九都市が加盟。これまで、冬の都市交通や除排雪などについて事例紹介や意見交換を行い、まちづくりに生かしてきました。本市では、このような札幌

の特性を生かした交流を、企業や研究機関などさまざまな団体相互の交流へと広げ、経済の活性化に結び付けていきたいと考えています。

また、北方圏の交流や姉妹・友好都市交流で培った各都市との関係や経験を生かし、地理的に近く、経済成長が著しい韓国・中国など、東アジア地域との交流にも力を入れていきます。

☆ ☆ ☆

市では、今後十年間に市民・企業・行政が取り組む国際化の考え方や基本目標をまとめた「国際化推進プラン」を策定しました。その内容は、冊子やホームページで紹介する予定です。詳しくは、十一月号でご案内します。

国際交流についての
お問い合わせは
交流課 ☎(21)2002221

国際舞台で活躍する市民活動団体

地球市民の一員として私たちにできることは何か？
そんな思いから活躍する市民活動団体をご紹介します。



どさんこ海外保健協力会
代表 榎戸健次郎さん
(医師・厚別区在住)

私たちの会では、1994年から3年間、カンボジアに医師を派遣しました。それ以来、農村部で健康指導や初期治療などを行うボランティアの養成や、助産師へのトレーニングなどの活動を続けています。より多くの方に、発展途上国の実情や海外協力の在り方を知っていただきたいと、2カ月に1回の講演会のほか、月1回の勉強会を開いており、どなたでも参加できます。

また、さまざまなイベントに参加し、現地で仕入れた民芸品の販売なども行っています。今年2月にちえりあで開かれたNGO屋台村や、9月にスピカで開かれたコンベンション市場にも出店しました。“この品物は、どんな生活

をしている人が作っているんだろう”。そんな素朴な疑問が国際協力のきっかけになる方も少なくないでしょう。

国際協力は、専門技術を持っている人しかできないわけではありません。現に私たちの会員の多くは、医療や保健分野以外の人。大切なのは、何か自分でできることはないかという気持ちです。(談)

10月19日(土)、20日(日)に行われる「国際協力フェスタ」にも、同会が出店します。詳しくは、23ページをご覧ください。



ちえりあロビーで行われたNGO屋台村



民芸品を通じて現地のことを知ってほしいというのが願い

姉妹・友好都市交流の新たな展開

姉妹都市提携30周年記念「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」を開催

本市の姉妹・友好都市はアメリカ・ポートランド市(昭和34年)、ドイツ・ミュンヘン市(昭和47年)、中国・瀋陽市(昭和55年)、ロシア・ノボシビルスク市(平成2年)の4市です(カッコ内は提携年)。

そのうち、同じ年に夏と冬のオリンピックが開かれたことを縁とするミュンヘン市とは、今年で提携30周年。それを記念して、11月23日(祝)から12月15日(日)まで、大通公園西2丁目「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」を開催します。

クリスマス市とはドイツの多くの都市で、クリスマスの準備期間中に、クリスマス用品を売る屋

台が立ち並ぶ市のこと。ミュンヘン市では、新市庁舎前や街の至る所に毎晩灯がとまります。大通公園には、ドイツからの出店を含め、飾り物などを販売する店が立ち並ぶほか、ステージでのパフォーマンスなどを予定しています。

姉妹・友好都市の間では、市民の皆さんに幅広く楽しんでいただけるこうした行事の開催や、具体的なテーマを定めた交流を進めていきます。

☎詳細 国際プラザ ☎211-3677



ミュンヘン市新市庁舎前のクリスマス市



(写真：ミュンヘン市観光局)